

国際貢献・自国民保護に名を借りた 日本軍の海外派兵を許すな!! これからの反戦反軍闘争の構築を



No. 22

1992.4.1 定価100円

編集 「風をよむ」編集委員会 発行 共産主義者同盟首都圏委員会

4・26 PKO反対! 春の一日行動へ

自衛隊の海外派兵をめぐる動きが、このところ急速にたかま...

昨年秋、参議院で継続審議となった国連平和維持活動(PKO)協力法案について、政府は...

重大な問題といえよう。PKO法案、自衛隊法の改正案はともな国会で政治改革論議の陰に隠れて、さしたる議論...

3.4 市民平和訴訟第三回口頭弁論と国際戦争犯罪法廷集会報告

三月四日午前十一時一五分から東京地裁一〇三号法廷において、市民平和訴訟の第三回口頭...

加藤弁護士によって行われた。口頭弁論を終えて、簡単な総括集会と休憩の後、PKO法案...

動がはじまっている今日、国家という枠組みを前提とした防衛力の構想がどれほど有効性を...

ソ連共産党の崩壊とソ連邦の解体(3)

マルクス主義と共産主義運動の新しい展望とはなにか

我々の課題とはなにか

旧ソ連の政治体制規定は十全ではないが「国家社会主義」...

であるとして、トロツキイ的な補正政治革命にならざる考...

民自身によって否定された。ソ連の崩壊は未だ何を生み出すかは定かではないが、否定されたものがあつたことは確かである。

第三インター・マルクス主義の失効

だが、これらの考察の前提は第三インター・マルクス主義の...

るのは紛れもなく、第三インター・マルクス主義の失効という...

第三インター・マルクス主義を総括する我々の観点



も参加者は七・八〇人程度。記録ビデオ上映のほか、「クラーク法廷」判事として参加した尾崎弁護士、スタッフとして参加した大川原百合子さんの報告などが行われた。会場はその名も...

「ここに示されたプロレタリア社会主義革命のビジョンは我々が思い描いていたそれとさほど異なるものではない。だが、そ

マルキシズム&ラディカルizmレビュー 1 発行にあたってポスト・マルクス主義とラディカル民主主義

天皇制と国家主義的統合を打ち崩す民衆的闘いを

「日の丸・君が代」の強制を打ち破ろう!!

二月十五日、「日の丸・君が代」の強制を打ち破ろう!!」の集会が、東京市多摩区千歳・神奈川、新潟、仙台などの全国から参加を得て、九二年度教育現場の矛盾はありとあらゆる形で噴出しており、「日の丸・君が代」強制が、それらを押しつぶし、学校を国家主義的に統合しようとしている。「この権利条約」の批准すら拒否する日本の教育が、「天皇への敬意」を要求し、「日の丸」を仰ぎ見させ、「君が代」を斉唱せよとする。

午後三時から早稲田奉仕園にて「やめよう!」東日本連絡会」の集会に合流し、七時より「交流会」がもたれた。(交流会は翌一六日も引き続き「討論」と「め」が行なわれた。)

集会は、東京市多摩区千歳・神奈川、新潟、仙台などの全国から参加を得て、九二年度教育現場の矛盾はありとあらゆる形で噴出しており、「日の丸・君が代」強制が、それらを押しつぶし、学校を国家主義的に統合しようとしている。「この権利条約」の批准すら拒否する日本の教育が、「天皇への敬意」を要求し、「日の丸」を仰ぎ見させ、「君が代」を斉唱せよとする。

新学習指導要領実施を控えた学校現場での「日の丸・君が代」強制に反対する様々な取り組みが報告された。すでに本実施を前にした九一年度には全国で二〇〇名以上の教師たちが懲戒処分攻撃がかけられており、政府・文部省の並ならぬ「決意」が読み取れる。しかし、処分攻撃を受けた教師たちは底抜けに明るく、その「闘争報告」に会場はたびたび爆笑の渦を巻き起こし、濁流のように押し寄せる「日の丸・君が代」に対して、したたかに闘う仲間たちは健在である。

天皇・天皇制を撃ち崩す民衆的契機を

Xデーの二年間において、憲法における「象徴」規定そのものが、絶えず天皇制強化の法的源泉となってきたこと、元首化も神格化も可能とする道を用意していたことを明らかにした。さらに言えば、天皇は「元首」などという世俗にまみれた存在よりも、もっと崇高なものとしての神格をあわせもったのである。

民衆のなかに存在する宗教的心理や習俗、卑俗な社会意識としての神祕観、貴賤観などというものが、一方で天皇制を維持させてきたとも言える。そして「神聖さ、超越性」を我々に植えつけ、日本の社会が内包する差別的、排外的構造がそれを相互媒介的に加速させている。

とすれば、近代国家における国民統合の形式と論理を創り出すために、改作・創造された「虚構」にすぎない天皇制を、まず事実を掘り起こし粘り強く批判していく、と同時に、天皇の宗教的権威と政治的機能の強化を打ち破り、一切の国家(至上)主義的統合に反対し、排他

共生・連帯のオルタナティブに向けて①

地域政治闘争の意味するもの

地域政治闘争の直接的な含意は、ヒトヒトXデーを前後する時期に、各地方地域での抵抗線線の形成にあった。草の根保守をはじめとした天皇制イデオロギーの下への動員構造づくり、権威主義的支配型強化は、各地方自治体、学校、更には商店街、団地自治会などまでターゲットにおさめられたとして進行することが想定された。(事実そのように進んだ)マスメディアの部厚い動員と、自治体、学校などを牽引力とする天皇制攻撃との闘いは、各地域での自立した、分散を強いながらもゲリラ戦として構想されたのである。

しかし以降、その定義づけと豊富化については、禁欲されて来た経緯がある。過剰な意味付与が避けられて来たと言ったべきだろう。「新しい社会運動」「新しい政治」一般と党の独自性との見地が検証されて来たとも言える。この小論は、こ

うした経緯をはなれて新たな回路を開こうとするものではない。「新しい社会運動・新しい政治」の問題を現在の視点から点検し、現代社会の根源的な変革を組織するための様々な試行をつぶさに見てみることに、これが目的である。

我々はなぜこの時代に先に挙げたような一定の禁欲や制限をもって臨まねばならないのだろうか。しばしば六〇年代、七〇年代の運動のセンスに依存している。全共闘以来の運動の継承発展が問われるとしても、それはソ連、東欧の激動、とりわけソ連共産党の解体という歴史的現況が踏まえて上でのことである。この時代に前衛至上主義者までふくめて素朴実践主義は、厳に戒めねばならない。それが新左翼内部にどのようになり邪悪な権力政治を醸成させてきたか、一〇年、二〇年の損失ではあるまい。他方、政治経済分析がただちに政治闘争や大

的擬似共同体意識に反対していくことが重要であろう。

社会党の「新見解」批判

「日の丸・君が代」の強制は「天皇の至上の権威」の踏絵として機能し、新たな差別と分断抑圧を強化するものである。いかなる国歌・国旗の強制も国家主義的排他性、差別性を強める方向にしか働かないのであり、「国歌・国旗は必要」という常識から自由になる必要がある。

例えば社会党の新見解は「主権在民・象徴天皇の憲法にふさわしい」「(社会新報)で掲載されなかった本文には「国民が敬愛する天皇・皇后陛下」という一文も存在する」ということを前提にしてしまった。「戦争責任のけじめ」や「国家主義的利用すべきではない」と、い

る国家主義の強まりを指摘できても、天皇制との関係において、社会全体と国家の動態を提示することはできない。資質にもよるのであるが、先に挙げた分析「消極的安住型」に定位しているのだから。しかし、現在の日本国家は、消極的安住など許されてはならない。東西南北を問わず、日本国家は周辺からの十

字砲火にさらされて、民間人の犠牲者が日に日に続出している。こうした事態は、世界システムの提示、片や、というべきかどうか、パルク一〇周年での「国際連帯マニフェスト」と並べて、花崎昇平氏は、次のような分析を紹介している。「革新政権への移行もどまず、保守の反動化も嫌う」消極的安住型の生活保守主義の傾向、日本の市民社会の特殊な成熟と政治国家からの相対的自立、というも

のであった。いまでは何の新味もないが、この時代は、「地域住民運動」というひとつの歴史が、三里塚反対同盟の分裂や、「分権・独立運動情報」(地域社)「土の市民の声」(自主講座)がともに廃刊を迎えた運動的節目をなしていた。

花崎氏は、現在の日本にお

寄稿・情勢分析のためのエクササイズ

何のための日本資本主義分析か

坂内 仁

わが友レニン(ジュンビエフ)それともスターリン?」からの最高指示が届いた。「次号の「風をよむ」(全国政治新聞)のために日本資本主義分析を書け」という内容である。

「なぜ今頃、日本資本主義分析か」というのが率直な印象である。もともと、理由はいろいろ推測できる。

その一、レーニン主義的性情。「長崎の歪曲」を受けているように、深層心理は変わっていない。ネタ切れという切羽詰った事情で、思わず「昔の刷り込み」が顔を出した。

その二、「どうせマル戦の残党だから、経済分析でもやらせておけばいい」という本音的性情。

その三、パブル経済の崩壊、日米経済摩擦の激化など、「日本経済は転機を迎えつつあるのではないか」という疑問的存在ではないか」という疑問的存在ではないか。

「日米経済摩擦の激化など、「日本経済は転機を迎えつつあるのではないか」という疑問的存在ではないか」という疑問的存在ではないか。

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」

「度はずれな政治的啓蒙」や政治的主張主義は左右のブレを生み出すことになる。しかし、「新しい政治・新しい社会運動」は現代の階級闘争において、新たなイデオロギイの磁場をつくり出すにはない。反天皇制闘争はそのような転回点に立ち至っていない。

「新しい社会運動」